
獣医コミュニケーション研究会会報 第4号 (2024)

1. 巻頭言

2. 報告

- ・2023年 年次大会
- ・学びばこ
- ・獣医師会雑誌コラボウェビナー

3. 事務局からのお知らせ

- ・行事予定
- ・総会議事録

1. 巻頭言

2023年度の年次大会は、隠岐郡海士町という小さな離島で「島で搾った牛乳を島で飲むにはどないすんねん」をテーマに開催されました。現地に会長不在ではありましたが(すみません)、ハイブリッドに行われましたので、リアルタイム(あるいは録画で後から)参加させていただきました。島で島の牛乳を飲むという課題に対し、いろいろな方が顔をつきあわせて話す様子がまさしく参加型の進み方で、NDKらしさをとても感じました。もちろん、学術大会的な位置づけの年次大会も必要ですが、こんな企画もまた増えてくれたらと思います。

動物感謝デー然り、各イベントとも、どうしても設立当初からの古参メンバーが主体になりがちですから、若手～中堅くらいの方々にも、どんどん手と口を出していただきたいところです。世代交代という、上の代が追いやられるような感じもしてしまいますが、老いも若きも活躍できる場になってくれればと思います。

そうした活躍の場を広げる一助となるべく、NDKとして研究倫理委員会の設置準備が進んでいます。いまや、どこかに学会発表や論文投稿しようと思っても、倫理審査を受けていなければ門前払いされてしまいかねない時代になりました。獣医学の領域にとって動物実験の倫理審査は馴染みがあるものですが、人を対象とした心理・社会的研究の倫理審査はなかなか縁遠く、獣医系大学でさえもなかなか受けられません。それでは到底、獣医コミュニケーションという領域を発展させることはできませんから、NDK内に倫理審査を受けられる仕組みをつくり、せっかくの皆さんの取り組みを公に出せるようにしようということです。審査にあたる委員には研修を受けていただく必要があることから、無料で審査というわけにはいかなそうですが、何かやってみようというときに、審査を受けておいて悪いことはありませんから、設置された暁にはどんどんご活用ください。

(木村祐哉)

2. 報告

・2023年 年次大会「島で搾った牛乳を島で飲むにはどないすんねん」

1. 日時:2023年9月9日(土)15:00~18:00、10日(日) 9:30~11:30
2. 場所:(島根県隠岐郡海士町海士 5328-6)
3. 参加費:現地参加 2,000円・オンライン 無料
4. 参加人数:対面 20名(講師含む)、web 6名の合計 26名
5. 大会長:堀北哲也(日本大学)
6. 講師:掛谷祐一さん(海士町畜産農家、株式会社まきはた)
森脇俊輔さん(松江家保隠岐支所)、中村祥人さん(隠岐保健所)
7. 進行:若柳翼さん、堀北哲也
8. 配信:山本浩通さん、石井一功さん
9. 内容:

1日目

- ・講演 ① 掛谷祐一さん(株式会社まきはた)「近くで作って近くで飲む」
 - ② 森脇俊輔(松江家保隠岐支所) 「離島における乳用牛の衛生管理と獣医療」
 - ③ 中村祥人(隠岐保健所) 「牛乳製造に関する食品衛生関係法令について」

・WS 掛谷さんの思いを実現するにはどないすんねん

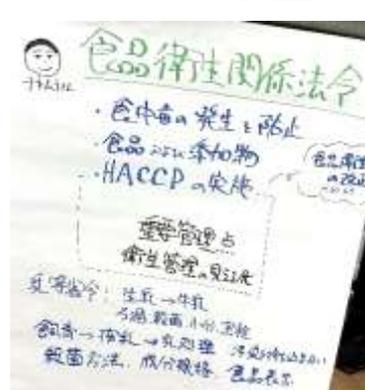
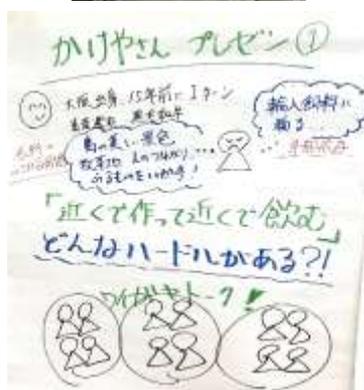
掛谷さん



森脇さん



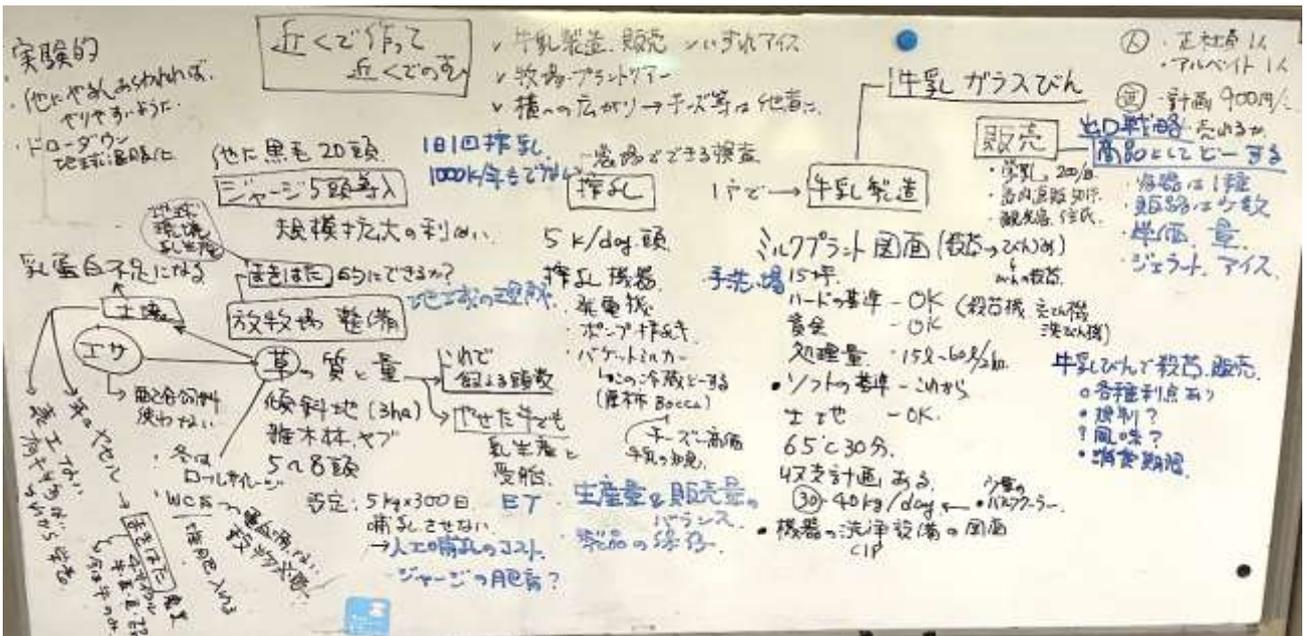
中村さん

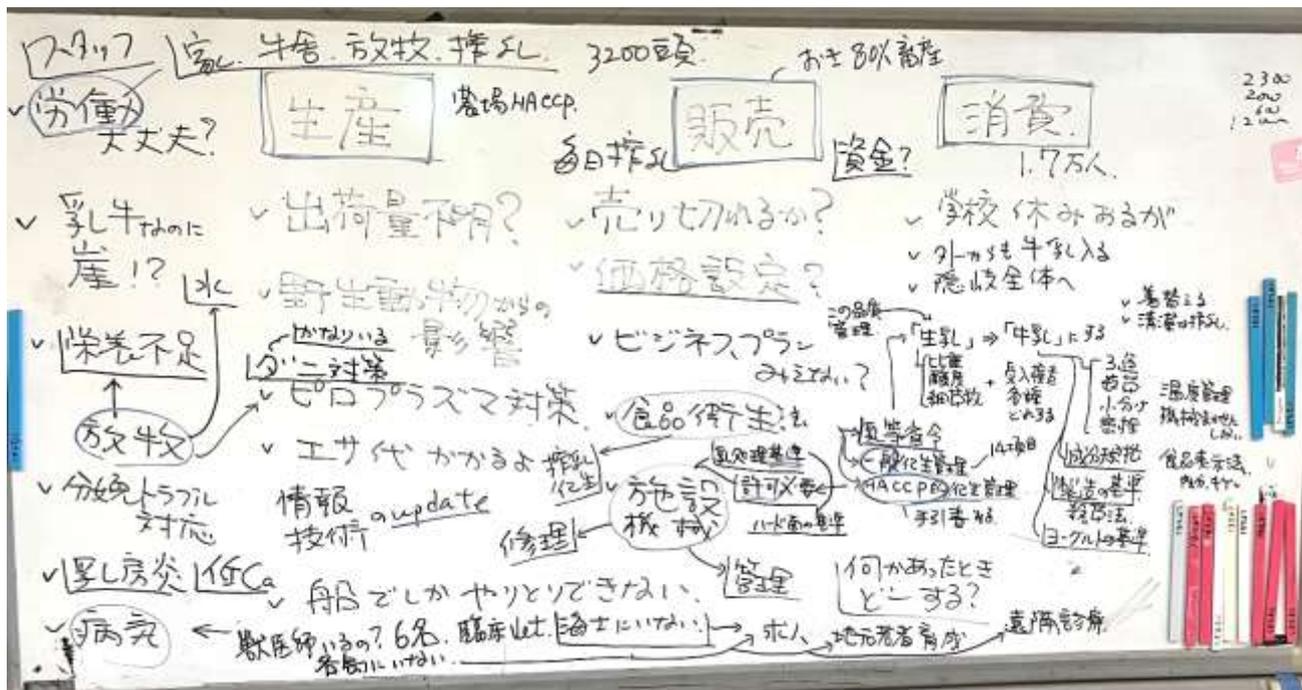




2日目

- ・講演 掛谷祐一さん「近くで作って近くで飲む」
- ・WS 繁殖計画どないすんねん
牛乳を 900 円/L で売るにはどないすんねん





大会後

- ・隠岐島前高校コーディネーター石井香名さんを若柳さん・堀北が表敬訪問し、高校生たちとのワークショップの可能性について話し合った。
- ・榊原さん(海士町)のご紹介で、若柳さん・松岡さん、榊原さん、桑原さん、堀北が、海士町役場を表敬訪問し、吉元操さん(副町長)、宇野伸二さん(地産地消課長)、中根健太さん(地産地消課)と、海士町の獣医療について話し合った。

8. 参加者の事後アンケート(抜粋)

- ・とても刺激的な会合だったと思います。頂いたご指摘など踏まえて、事業運営に生かして行きます。ありがとうございました。(掛谷さん)
- ・獣医学だけでなく、土壌学、草地学、栄養学、経営学、マーケティング学などが必要な会でした。その辺が時間の関係で混んとしていたのが面白い話でした。
- ・提案者が具体的な構想を持っていたので、サポートはしやすかったのではないのでしょうか？
- ・リモートモリアルで参加出来る完全ハイブリッド方式はよかったです。



- ・酪農専門家による具体的、現実的議論がすごかった。ジオパークである島の独自の生態系を守りながらどう酪農していくのか？ 堀北さんと若柳翼さんのコンビがめちゃ良かった。場づくりの大事さを改めて実感。コミュニケーションの研究会にもなっていた！



- ・新たな価値観に出会いました。島に移住してくる人の気持ちがわかりました。



- ・様々な技術や職種の方々が集まって、一つの目標に取り組むことで、こんなにも幅の広い話し合いができるのかと感動しました。またそれぞれの立場の違いでの考え方や価値観が違うところから、そのすり合わせをしながら話し合いが進み、1日目と2日目では、参加者の意見の方向性も大きく変わったことも印象的でした。大変刺激的な2日間でした。



- ・いろんな意見は出ましたが、すべては前向きに進めるため、次の日にはそれを補う意見が出るなど、こういう風にミーティングを進めていきたいと思いました。それから掛谷さんのビジネスは、実験的とおっしゃってましたが、新しい形だなと思いました。自分たちの仕事に関しても当てはまることが多々あり、考えさせられました。
- ・地域を心豊かにするために酪農に取り組もうとする、掛谷さんの志と実行力が素晴らしいと思いました。ジャージー牛乳の販売が始まったら、隠岐に飲みに行きたいです。

9. Special Thanks

2022年12月11日、若柳愛さん(海士町在住)から堀北が、掛谷祐一さん(海士町、繁殖和牛農家)を紹介され、掛谷さんから「島で生産した牛乳を島の人たちに飲んでほしい」という思いをお聞きし、この地でNDK全国大会を開催することとなりました。2023年1月4日にグループLINE「NDK 隠岐の会」(最終的には23名が加入)を作り準備をすすめました。

若柳愛さん、そして若柳翼さんには企画・準備からはじまり、当日の会の進行、お弁当手配、参加者の送迎など大変お世話になりました。ありがとうございます。

掛谷さんには、参加者からの様々な指摘事項を真摯に



翼さん、愛さん、山本さん、赤間さん



1日目BBQ

受け止めて下さったのが印象に残っています。議論を前向きにとらえて頂きありがとうございます。また 2 日目には掛谷さんが、儲けるために搾乳事業をしたいのではなく、島の人が島の牛乳を飲むという祭典的な色彩の搾乳事業をしたいことが皆に伝わりました。そのきっかけとなったのは、石川潤さん(海士町在住)が、2 日目に自身のワインづくりに取り組む思いを皆に語って頂いたことがきっかけでした。石川さんとの出会いは、行きのフェリーの中で声を掛けて頂いたことが始まりでした。ありがとうございます。



石川さん

松井匠作さんには準備の段階から掛谷さんの事業に参考となる様々な情報を提供して頂きました。さらに、榎谷雅文さん(北海道)、石井一功さん(大阪)、山本浩通さん(鹿児島)、地元の岸真名生さん(NOSAI 島根)、三島貴吉備さん(同)、野田浩正さん(知夫村獣医師)、講師も務めて頂いた森脇俊輔さん、中村祥人さん、web 参加の関あずきさん、寺内宏光さん、白戸綾子さん、石山大さん、門平睦代さんからは、掛谷さんの思いを実現するための、たくさんの専門的なアドバイスをさせていただきました。ありがとうございます。



掛谷さん、榎原さん

水谷尚さん(日獣大)には、大会でのアドバイスもさることながら、後日、代謝プロフィール試験のために、大会後、再度海士町の掛谷さんを訪れ、検査および助言をしていただきました。ありがとうございます。



門平さん、野田さん

赤間倫子さん、石井裕美さんには、大会当日の集金等の事務局仕事を急遽引き受けて頂きました。ありがとうございます。

山本浩通さん、石井一功さんには、プロ顔負けの器材と技術で、対面と web のハイブリッド開催を成功に導いていただきました。ありがとうございます。



山本さんと器材

日本獣医師会には大会開催に関わる諸経費を助成(令和 5 年度獣医療提供体制整備推進総合対策事業)して頂き、また、松岡猛さん、榎原早苗さん、栗野真優さんには大会にもご出席いただき支援して頂きました。ありがとうございます。



栗野さん、榎原さん、松岡さん



堀北、榎谷さん、赤間さん、水谷さん



開催案内のポスター



2日目:語る石川さんと参加者、中央のモニターにはweb参加者



テープで見送られて、島を離れる

※獣医療提供体制整備推進協議会及び公益社団法人日本獣医師会が実施する令和5年度獣医療提供体制整備推進総合対策事業における「管理獣医師の実践的な技術・知識を修得するための講習会」として開催

以上
(堀北哲也、2024.2.24)

<学びばこ 運営報告>

コロナ禍で zoom、Microsoft Teams などの利用が普及し、オンラインによる研修会も一般的となっています。そんな中、企業などでは社員の教育・研修に e-ラーニングシステムの導入も増えています。e-ラーニングの最大の利点は、受講者がそれぞれ自由なタイミングで受講できると、実施者側にとっては、受講者の理解度を測ることができる点です。

NDK は、公益社団法人 日本獣医師会が行う管理獣医師等育成支援事業・獣医師就業支援対策事業を活用して e-ラーニングによる講習会を開催し、同時に運営の試行を行ないました。

e-ラーニングによる講習会は、パソコンだけでなく、タブレットやスマートフォンでも受講可能で、自分の都合により空き時間を活用できるのが特徴です。また、開催側は、zoom や YouTube 等に比べ、受講状況を詳細に把握できること、さらに、テストにより理解度を確認できることがメリットです。必要があれば、デジタル受講証の発行も可能です。

一方、受講者の登録作業が必要となるため、管理者や受講者の作業が増えてしまうことが想像以上にハードルとなったり、zoom などに比べ、運営にコストがかかるのも課題となります。さらに、講師にとっては、リアル開催や、オンライン開催の講演の準備に加え、動画編集作業などが増えてしまうことも課題です。慣れてしまうと、大きな負担とならないかもしれませんが、日頃、このような作業をしていない場合、作業にかかる時間や、ストレスなど負担が大きいのも事実です。

とは言え、e-ラーニングは、同一場所、同一時間に集まる必要がなく、自由なタイミングで研修等を受講できるため、今後ますます活用が進められると思います。e-ラーニングシステムには、様々な特徴のあるサービスがあるため、使用したい形態により、最適なものを利用するのが良いでしょう。

今回、課題も見えてきましたが、e-ラーニングの可能性、運営方法について、一定の知見を得ることができました。今後、実際に集まって行うリアル研修会と同様、このような e-ラーニングによる場が増えていくことを期待します。

(柴田正志)

・獣医師会雑誌コラボウェビナー

日付	テーマ	担当
2023年 4月25日	メンタルヘルス型コミュニケーション～誰も傷つけない誰も傷つかないために、人間関係をどのようにしていくか	工藤智徳(人財科学研究所)
2023年 6月26日	継続的な人間関係の中で活かされる獣医師としてのメディエーション	田中圭子(メディエーターズ)
2023年 8月3日	最善の医療の提供をするためのインフォームド・コンセント	小沼 守(千葉科学大学)
2023年 9月7日	異なる職場にも共通するノンテクニカルスキル	埼玉英一郎(全国酪農協会)
2023年 10月31日	小動物の臨床現場で見られるストレス要因とミスコミュニケーション	宮下ひろこ(アシスト・ヒューマンリレーションズ)
2023年 11月27日	養豚コンサルタントにおけるコミュニケーション	福山 聡(フォーピッグ那須)
2023年 12月20日	農場 HACCP とコミュニケーション	犬丸憲之(犬丸獣医科クリニック)
2024年 1月26日	家保の業務で必要となるコミュニケーションスキル	柴田正志(静岡県東部家畜保健衛生所)
2024年 2月28日	代謝プロファイル試験の成否はコミュニケーションが握っている	水谷 尚(日本獣医生命科学大学)
2024年 3月26日*	JGAP 畜産とコミュニケーション	白戸綾子さん(JGAP 上級審査員、農場 HACCP 主任審査員)

*:開催予定

3. 事務局からのお知らせ

・行事予定

2024年4～5月 総会

2024年8～9月 年次大会

2024年9月21日 動物感謝デー

そのほか、原稿協力している日本獣医師会雑誌の解説・報告原稿「獣医療とコミュニケーション」の連載は今年度半ばまで継続しますので、コラボウェビナーもそれにあわせて企画予定です。

・総会議事録

獣医コミュニケーション研究会 2023 年度総会 議事録案

2023 年 8 月 15 日 21:00~22:00 於:オンライン

出席者:木村祐哉、松井匠作、山本浩通、榎谷雅文、武田 哲、関あずさ、柴田正志、石山 大、
松岡 猛、白戸綾子、榊原早苗、若柳 翼、窪田健太郎、楠川翔悟、工藤智徳、堀北哲也
(敬称略、順不同、16 名)

議事録作成者:木村祐哉

1. 事業報告

1) 企画実施 [事務局]

年次大会(9 月 17 日 *農林水産省補助事業(令和 4 年度獣医療提供体制整備推進総合
対策事業))と、オンライン勉強会(8 回、のべ 171 名参加)について報告があった。

2) 学びばこ [柴田正志](資料 3)

公益社団法人日本獣医師会が行う令和4年度 管理獣医師等育成支援事業・獣医師就業支援
対策事業「管理獣医師の実践的な技術・知識を修得するための講習会」の実施主体となり、学
びばこクラウドサービスを利用した、e-ラーニングによる講習会開催に向けたシステム整備を
行ったことが報告された。

2024 年2月末までのシステム利用期限を念頭に、講座の追加を進めるが、この作成した講
座コンテンツ自体はそれ以降も使用可能となることが確認された。これら講師候補等の提案や
意見については、引き続き柴田を中心として検討を進めることとした。

3) 日本獣医師会雑誌連載の企画・調整 [事務局]

日本獣医師会雑誌の連載「解説 獣医療とコミュニケーション」の執筆調整および依頼を行っ
たことが報告された。

4) 第 3 号会報(2023 年 3 月 1 日付)の発行 [事務局]

第3号の発行について報告があった。

5) 2022 年度決算(資料 1)

決算案について事務局より説明の上、松井監事による監査報告があり、賛成多数により承認
された。あわせて、監査の便宜上、会計年度の変更も有用であることが示唆された。

2. 審議事項

1) 事業計画案

1-1) 2023年 年次大会 [堀北]

年次大会(2023年9月9日午後~10日午前、隠岐郡海士町)について、「島で搾った牛乳を島で飲むにはどないすんねん」をテーマとし、現地およびリモートのハイブリッド型セミナーで実施計画を進めていることが、堀北大会長より説明があった。

本年もまた、農林水産省補助事業(令和5年度獣医療提供体制整備推進総合対策事業)として実施予定となっている。ただし、会場費や消耗品費を賄える程度の参加費を徴収する計画である。

1-2) 日本獣医師会雑誌連載「解説 獣医療とコミュニケーション」 [事務局]

従前どおり、堀北事務局長が主体となって調整を行うことになった。

1-3) オンライン勉強会 [事務局]

オンライン勉強会も従前どおりに開催し、前項の連載企画と連動させたコラボセミナーも堀北事務局長を中心に継続することになった。

1-4) 第4号会報の発行 [事務局]

継続して発行することが承認された。

1-5) 銀行口座の移設検討 [事務局]

千葉銀行に開設された現行口座は支店へのアクセスが悪く、運営上の不都合を生じるため、利用しやすい口座への移設を検討することとした。

1-6) 研究倫理委員会の設置検討 [木村]

学術的な調査の実施や報告に際し、事前に倫理審査の受審が求められる現状に対し、本研究会として、心理・社会的研究の研究倫理委員会を設置する検討を始めることが提案された。

外部からの審査の質に対する指摘にも耐えうるよう、審査にかかる規約を適切に定め、委員の教育状況についても保証する旨、確認された。

2) 予算案(資料2)

年次大会にかかる経費として会場費と消耗品費を計上し、そのぶんを賄える程度の参加費を徴収する計画とした。講師謝金や Zoom 契約料は昨年までと同様、日本獣医師会の助成事業から直接支払われるものとして計上はせず、以上による予算案で承認された。

資料1

獣医コミュニケーション研究会 会計報告

●貸借対照表●

2023年3月31日

【資産の部】		【資本の部】	
勘定科目	金額	勘定科目	金額
預金	83,579	次年度繰越金	83,579
現金	0		
資産合計	83,579	資本合計	83,579

単位：円

●2022年度 収支決算報告書●

自 2022年4月1日 至 2023年3月31日

科目	適用	予算額	決算額	差額
【収入の部】				
年次大会費	助成金	0	9,550	9,550
収入 計		0	9,550	9,550
【支出の部】				
年次大会費	助成金	9,000	9,000	0
	同 振込手数料	550	550	0
支出 計		9,550	9,550	0
差引 計		▲9,550	0	0

単位：円（税込）

本年度収支計 0円

前年度繰越金 83,579円

次年度繰越金 83,579円

補足：連続セミナーのための zoom 契約料、講師謝金は、日本獣医師会
助成事業にて該当者に直接支払われた。

以上の通り報告します（2023年6月27日）。

会計 堀北哲也

会計検査の結果収支が適正であったことを認めます（2023年6月30日）。

会計監査 松井匠作 

資料2

●2023年度 収支予算書●
自 2023年4月1日 至 2024年3月31日

科目	摘要	予算額	備考
【収入の部】			
年次大会費	参加費	20,000	10人×2,000円
収入 計		20,000	
【支出の部】			
年次大会費	会場費	10,000	隠岐郡海士町
	消耗品費	10,000	文具等
支出 計		20,000	
差引 計		0	
前期繰越金		83,579	
次期繰越金		83,579	

単位：円（税込）

補足：連続セミナーのための zoom 契約料、講師謝金は、日本獣医師会助成事業にて該当者に直接支払われる予定である。



令和4年度 e-ラーニング事業実施報告

報告者 柴田正志

公益社団法人 日本獣医師会が行う令和4年度 管理獣医師等育成支援事業・獣医師就業支援対策事業「管理獣医師の実践的な技術・知識を修得するための講習会」の実施主体として以下に取り組んだ。

令和4年度 事業実施内容

学びばこクラウドサービスを利用して、e-ラーニングによる講習会開催システムを整備し、以下の講座を試験的に開催

- 演題名：登録飼養衛生管理者による豚熱ワクチン接種
氏名：柴田正志（獣医コミュニケーション研究会）
- 演題名：分娩舎における子豚の管理
氏名：堀北哲也（獣医コミュニケーション研究会）

令和5年度事業計画

令和6年2月末までシステムの利用が可能であることから、5年度は引き続き事業の目的にあわせ、講座を開催する。

講師：獣医コミュニケーション研究会会員（もしくは外部）にe-ラーニングによる講師を依頼し、講座を増設する。

講義内容：以下を参考に事業の目的に合った内容とする。

臨床獣医師に対し、畜産経営、群管理を含む生産獣医療、HACCP等に関する講習会を実施することにより、生産者が求める農場経営等に関する知識と実践的な技術を持った管理獣医師の育成を図る。

講義形式：パワーポイント動画（原則解説音声付き）

1講座あたり 40～60分程度を目安

（1セッション10～15分以内とし、1講座3～4セッション）

受講対象：（産業動物）臨床獣医師、家畜保健衛生所獣医師のほか、生産者も対象とする。

講師謝金：未定

以上

獣医コミュニケーション研究会
(Japan Association for Veterinary Communication)

通称:全国畜産支援研究会、農場どないすんねん研究会(NDK)

役員名簿(第2期)

会 長	木村 祐哉
副会長	石山 大
運営委員	今井 泉
	窪田 健太郎
	中尾 洋一
	若柳 翼
事務局	堀北 哲也
監 事	松井 匠作

発行日
—2024年3月1日—